

みんなで作ろう！図書館、文化ホール、郡中地区公民館 建設市民ワークショップ通信

発行：伊予市役所産業建設部都市住宅課庁舎建設室 Tel：089-982-1111 内線581・582

3月22日（日）の午後、郡中地区公民館にて、第9回「みんなで作ろう！図書館、文化ホール、郡中地区公民館建設市民ワークショップ^{※1}」を開催しました。最初に（株）山下設計から、実施設計に向けて、基本設計案の修正点を説明しました（p2）。次に、文化ホールの椅子の幅と間隔について、現物の椅子に座り寸法を体験しました。その後、変更内容について全体の場で話し合い、方針を確認しました（p3～）。休憩の後、グループごとに新しい施設が伊予市の拠点として役立つイメージを話し合い、まちなかの拠点の意味を考えました（p6～）。最後に、今後の進め方も含めて感想カードをお書きいただき（p10）、第9回のワークショップを終了しました。

建設市民ワークショップもいよいよ最終回となりますが、実際に建物が完成するまでには3年間という時間があります。さらに建物ができてから10年間、20年間という時間の中で、この施設によって伊予市がどのように変わることができるのかがこのワークショップを通して考えて頂きたかったことです。最終回には市長さんも出席される予定ですので、まとまった計画案を報告し、まちなかの拠点として今から何ができるのか、具体的な行動計画を考えましょう！是非、最後のワークショップにご参加下さい。

<プログラム>

- 1：はじめに
- 2：実施設計に向けた変更点について説明します
- 3：ホールの椅子について確認しよう
- 3：何でも質問タイム
- 4：新しい施設が伊予市の拠点として役立つイメージを考えよう
- 6：グループで考えた拠点イメージを発表します
- 7：全体でまちなかの拠点の意味について話し合います
- 8：まとめと感想カード

全体スケジュール

基本設計

- 第1回 2014. 6. 22(日)
・まちと施設の素敵な関係を考えよう！
- 第2回 2014. 7. 13(日)
・文化活動の現状を知り、3つの施設空間の検討課題を考えよう！
- 第3回 2014. 8. 31(日)
・3つの施設空間の提案を確認し、「文化ホール」についてじっくり考えよう！！
- 第4回 2014. 9. 21(日)
・文化ホールの魅力づくりと運営を考えよう！
- 第5回 2014. 10. 19(日)
・図書館と公民館について考えよう！
～複合施設のあるべき姿を考える～
- 第6回 2014. 11. 9(日)
・図書館と公民館について考えよう！
パートII
- 第7回 2014. 11. 30(日)
・基本設計案を現地で原寸確認しよう！
※8月10日中止による振替

実施設計

- 第8回 2015. 2. 22(日)
・基本計画案を最終確認し、実施設計の検討事項を話し合おう！
- 第9回 2015. 3. 22(日)
・実施設計に向けた変更事項を検討しよう！
・まちなかの拠点となる施設のあり方を考えよう！ パートI
- 第10回 2015. 5. 24(日)
・まちなかの拠点となる施設のあり方を考えよう！ パートII

解体 工事

- 2016. 5月
郡中地区公民館解体
- 2016. 9月
工事着工

2018年11月オープン予定

※1 ワークショップ…さまざまな立場の人々が集まって、自由に意見を出し合い、互いの考えを尊重しながら、意見や提案をまとめ上げていく場

何でも質問タイム

変更内容について、全体場で話し合い、方針を確認しました。

参加者 1：都市再構築戦略事業の補助金を受けることによって制限や制約あるかと思うが、どういうことになるのか、説明していただきたい。

庁舎建設課：前回、都市再構築戦略事業という国の補助金を利用し、工期が6ヶ月程度遅れることをお話しした。この事業について県や国との協議が行われ、計画の複合施設が、この補助を受けられるかどうかを詰めてきた。その結果、公民館という名前を使うことが難しいこととなり、先日の管理運営検討委員会でもお話をさせていただいた。

今まで、公民館を利用されている皆様、図書館を利用している皆様、建設に参加してみたい方、様々な方からご意見をいただいてこの基本設計ができたわけで、この設計案については何ら変更を加える必要はなく、この設計案で補助金の申請もしていきたいと思っている。

今回の基本設計を作る過程では、一般の方が使用の申請をして使う部屋について、「ここは文化ホールの部屋」、「この部屋は公民館の部屋」と色づけをせず、共用する部屋とすることでご理解いただいていると思う。今回は、全て共用の部屋ということとして、複合施設全体の施設の名前、例えば「コミュニティセンター」「生涯学習センター」「自治交流センター」など、この補助金を受けられるような名前にしたいと思っている。どなたでも利用しやすい管理運営体制については、管理運営検討委員会で皆さんの意見を聞いてやっていきたいと思う。

参加者 1：今回、図書館機能と文化ホール機能、公民館を合わせた複合文化施設を建設するということが建設計画を決定しているが、都市再構築戦略事業の補助金を受ける場合には、公民館が除外され、ここは図書館と文化ホールの複合施設になるという風に聞こえる。一昨年のタウンミーティングや市民のワークショップ、総合計画や建設計画で「図書館、文化ホール、公民館を合わせた複合施設」と約束しているのに、計画が変更になることに納得がいかない。要は公民館の看板も掲げることができないし主事も置けないということ。公民館の位置づけをどうするのか。そのことははっきり明記していない。前と計画が変わったというのなら、それを説明しないと。「使えるけん、構わない」という話ではいかんと思う。公民館の事務室はどこに置くのか、職員はどこに置くのか。別なところに置くとしたら公民館活動に支障が出る。当然料金も今まで免除の対象になっていたのが、いろんな条件が出てくると思う。そのことについてはきちんと精査せんと、「よし」とは言えないので、そこを説明してほしい。

庁舎建設課：当初から複合施設については、図書館機能、文化ホール機能、公民館機能ということで議論していただいた。それでできあがった案なので、公民館機能がなくなるということではない。ただ表現として、公民館という名前が使えないということ。地方公共団体の財政は、今後地方交付税がどんどん少なくなっていく大変厳しい状況になる。今、地方交付税の代わりにいろんな新しい補助事業が出てきつつあり、市役所の職員としては、それをどう有効活用するか、頭を使ってその補助事業をどうやって持ってくるかが非常に大切になってきている。それぞれの地方公共団体が知恵を絞り、この補助金を使うためにはどうやったらいいのかを考える、地方公共団体の競争である。今回、利用する都市再構築戦略事業はできたばかりの事業で、それを市としては利用し、できるだけ市の自主財源を使わない方向でやっていきたいと考えている。

公民館の事務所は、今はこの場所の事務室内にあるが、中央公民館の館長、主事、郡中公民館の館長、主事は新しくできる本庁舎の中に事務所を置きたいと考えている。新しい本庁舎の4階には、今までなかった、住民の皆様に使っていただく会議室を用意させていただく。郡中公民館を訪ねて相談をするのならその会議室も使えるし、そこで区長さんの会議を開いたり、愛護班の役員会を開くこともできる。新しくできる複合施設の事務所では、施設全体の申請の受付や設備の貸し借り全てができるので、今まで郡中公民館、中央公民館でやっていた事業に、何ら支障を及ぼすものではないと考えている。

使用料の減免については今後、管理運営検討委員会で検討していくので、その中で十分意見を言っていただきたい。今までと同じ免除は、これからの厳しい財政事情の中では難しいと思うが、その辺は検討委員会の方で十分検討させていただきたい。

今後、新しい施設の運営委員会を立ち上げていかないとけないし管理について、市民の方々にお力添えをいただいて、手伝っていただくこともあると思う。是非、そういうところにも参加して、できからの運営についてもご意見をいろいろ言っていたら、市民の方が使いやすい施設運営を行政と市民が協働して作り上げていきたいと思う。

参加者 1：経費節減ということで補助を受けることを否定するものではないが、公民館の事務所を市役所に置くというのは初めて聞いた。5地区に公民館があるが、事務室と施設は一体になっているのに、郡中地区だけ分離されたことになる。こちらの施設を使うときと事務所で協議するとき、こんなに大勢

の人がフロアにいる中で、「あーだこーだ」と馬鹿話もしにくい。このことについてはもっと論議をしないといけないと思う。市役所に置くということではなく、いろんな方法を模索していかないといけないと思う。要は公民館活動に支障のないようにしてほしいというのが願望である。これまで、事務室と施設を一緒に使っていたのが別になるのは、やむを得ないということがあるかも知れないけれども、これについては私自身も検討したいと思うので、市の方でも是非とも検討していただきたいと思う。

庁舎建設課：先日行われた管理検討委員会でも、そうするという結論は出ておらず、検討委員会の中で十分検討することになっている。今の案は、あくまで行政の案である。どうしたら運営がうまく行くかについては、また協議をさせていただきたい。市民の皆さんにできるだけご迷惑がかからないよう、職員が汗をかく方法でやっていく方向で考えている。

ファシリテーター：実施設計の中で、公民館機能をこの施設内に設ける変更はできると考えて良いか。

安田：間取りを変えることではなくて、今あるスペースを活用して、そこをどう使っていくの検討は十分できると思う。建物を造ったら30年、50年と使っていく中で、最初に考えたことと変わってくるところはどんな建物でもあるから、これ以外には使えないということはないと思う。

庁舎建設課：新しい施設に公民館の事務室を入れると、補助金の対象から外れることになるので、新しい施設に郡中公民館の事務所を置くことは難しい。それ以外の方法で考えさせていただきたい。

安田：この施設はまちを元気にするためにつくっているところがあるし、まちとの連動も考えなければならぬ。商店街の一角に出先の事務所があるのも良いと思うし、いろんなやり方があると思う。

参加者2：視覚障害者の立場で伺いたい。広いところを歩くのは、私たちはとても苦手である。頼る物がなくてまっすぐ歩くことができない。前に広場から誘導ブロックを敷いていただけるのか、入り口に誘導鈴のような音が出るものを設置していただけるのか、廊下に点字ブロックを敷いていただけるのか、階段には安全のために危険防止のブロックを敷いていただけるのか。そういうことを是非、お願いしたいと思う。

安田：敷地に入ってから事務室のカウンターまで、点字ブロックを敷いていくというのがバリアフリー関連の法律の考え方である。広場と施設の間に横断している道路があるので、外側の広場への動線はこれからの課題になると思う。基本的には国道側の歩道まで点字ブロックをつなげていくことになると思う。これについては実施設計の場で相談させていただくような場も設けた方がいいと思うので、ご相談させていただきたい。

参加者3：前回、「都市再構築戦略事業と景観計画がどう関係しているのか」という質問に対しては、「関連づけていない」という回答だった。今回、伊予市の新たな魅力とイメージを形成して、中心市街地のまちづくりを先導するために施設を造っていくわけで、都市再生構築事業もまちの拠点となるものを住環境の整備とともに進めていくということだから、景観計画と連動させて、まちの魅力を発信していくことを位置づけていく必要があると思う。庁舎建設計画の時にも、伊予市の景観区域内にある中心地に、新旧のまちに人が集まって交流する、賑わいのある景観をつくるということを目的にしているわけで、新庁舎も複合施設もそうした景観計画と連動して、まちの魅力を発信して集客を図っていくという、明確な目的を持って進めるべきだと思う。

参加者4：今の本庁舎は公務員の執務スペースとして造られているが、これからは市民的な考え方で本庁舎が設計され、運営されていかなければならない。この庁舎の中で、市民と公務員との関係性がどのように担保されているのかを把握され直さないといけないし、どのように位置づけられるのかをもう一度議論する必要があると思う。市民が入りやすいような形、「お前、何しにきた」という形のものにならないような考え方が必要だし、公民館という機能が位置づけられるとすれば、もっと市民スペース的な色合いを付けていただかないといけないと思う。また文化ホールと図書館については、民間に力があればという前提だが、完全民営スペースとして使った方が私は良いと思うので、本庁舎に公民館の事務機能を持つこと自体には賛成である。

庁舎建設課：今までの庁舎は、行政の事務や議会に特化したものだった。今回、新たに建てる庁舎については、市民の皆さんが多目的に活動できるスペースを1階に配置し、特産品や授産品の販売、エコに関するピエール、簡単な展示会、税金の場としては確定申告、選挙の期日前投票を庁舎でしていただきたいと思う。また市民活動コーナーも設置し、土日祝日、夜間に開放する。市民の皆様や住民自治組織の方が活動に取り組む場、市と協働して推進する事業の拠点の場も設ける。情報コーナーとして市政や議会情報などの提供もするし、イベントやボランティア活動の募集、インターネット端末等の情報機能を持つコーナーも設置する。何より市民の皆様が使いやすいのも来たい、いろいろな情報を収集したい、市の職員と交流して事業展開を図っていききたい、そういうことができやすくなるような庁舎を目指していきたいと考えている。4階には大きな会議室を設けて、海や夕日の見えるラウンジも設けて、何気なく遊びに来られる場所にもしていきたいと思う。

参加者4：伊予カフェの右側にPCコーナーがあるが、これはどんなものなのか。

安田：インターネットができるスペースとして考えている。大体インターネットが使えるところは一人1時間に限定をするなどの制約をかけているので、カウンターに近接したところで作ることが多い。誰でもインターネットでいろんな検索ができるスペースとしている。

参加者4：パソコンを持ち込む人への対応として、大洲の図書館では各テーブルのところに電気コンセントとパソコンをつなぐものがほとんどの机に付いていた。こちらでも当然のことになっているのか。

安田：パソコンのキーを叩く音を嫌がる方もいるので、奥の方の静かなエリアでは制限される可能性があるかもしれない。入口周りは、多少騒々しくても構わない設定としているので、そこでは可能とすることが、全体の考え方としては筋が通っていると思うがまだそこまで決まてはいない。ただ自分のパソコンを持ってきて使える方が、時代の流れとしては合っていると思う。

参加者4：ブラウジングコーナー^{*2}の三角形の椅子は背もたれのないソファか。

安田：ソファだが、背もたれをつけるかどうかまでは決めていない。

参加者4：大体の図書館では、雑誌のところは新聞も置くと思うが、新聞と雑誌を利用するのはほとんど高齢者なので、背もたれがあった方がいいと思う。

安田：一般的には雑誌と新聞がセットで置かれている例が多く、表の方に出ていることが多いが、近くに子どものゾーンや雑誌もあるからざわついてい。「新聞を読みたいから静かにしてくれないか」というトラブルがあるので、そういうことを踏まえて、新聞コーナーだけは奥の静かな場所にしてはどうかと考えている。

参加者4：個人的な感覚では、新聞を読む人は、結構バシャバシャとめくるので静かというよりは、にぎやかなのではないかと。高齢者のほとんどは新聞と雑誌を読みに来ていて、机はほとんど利用していない。机がほしい人たちは、図書も新聞もほとんど必要としていないで、参考書を持ってきて一所懸命勉強するという図書館の利用の仕方である。子ども図書館の丸く描かれた部分はソファですか。

安田：書架で、幼児のコーナーでは地べたに座って本を読むような感じである。もう少し学年が上がった子ども達には椅子とテーブルの用意をしようと思う。また小学校高学年、中学生には、「ヤングアダルトコーナー」という部屋を用意している。

参加者4：子どもでも、4～5年生になると大人と

同じテーブルで勉強したがると思うが。

安田：大人の椅子の高さは40cmぐらい、子どもは35cmぐらいなので寸法が少し違う。

参加者4：年代によって、図書館に求めている機能が本と机ではないということがある。

参加者5：ホールの2階席について聞きたい。ステージでコンクールをする場合に、2階席を審査員席にすると良いと思っている。2階の最前列を審査席にするときに、審査要の事務机を置くスペースを最前列の前に少しあるといいと思うが、置くようなスペースが取れるか。

安田：今は椅子を固定にしているが、椅子を外せるようにしておくことはできなくはない。

参加者5：椅子はそのまま使って、その前に机を置きたい。審査をするときに記入をする用紙を置いて書くことができるので。

安田：手すりを低くする場合、奥行きをとって安全性を確保する形になる。幅30cmぐらいをとる配慮はしていきたいと思うが、実際にはどのぐらいのスペースが必要なのか。

参加者5：45cmの机が入れば一番理想的である。

安田：机でなくても、手すりにそれだけの奥行きがあればそこを使える。ただ、今は何とも言えないところがある。この手すりの奥行きを深くしたり、客席前に広いスペースを取ると、後ろに座っている人からステージが見えなくなることもあるので、そういうこともあることを考えながら、断面を検討していきたい。

参加者6：今、「婦人会料理教室」という名前で料理教室をやっている。公民館という名前が外れても、公民館活動として、名目は別として利用できますということだが、図書館であり文化センターである中で料理教室を子なうことが可能なのか。イメージがわからないが。

参加者7：私は博物館関係の仕事をしていたので代わりにお答えしたい。図書館で料理教室はできる。というのは、教育普及活動というのがあり、例えば料理本というのがあるので、その活用で料理教室もできるし、いろんなことができる。その点はご心配なく。結局何でもできるるので、公民館をもぐり込ませることができる。実務経験者として申し上げた。

参加者7：給湯設備やシャワー、倉庫を設けることでステージが12.6mから10.8m、2mぐらい奥行きが狭くなるということである。図面を見ると、柱の位置が外側になるので、実質的には2m縮まったということではないと思うが、実質的にはどのくらい狭くなるのか。

安田：ほんの気持ち程度、90cmぐらいである。

※2 ブラウジングコーナー…雑誌や新聞を気軽に読むことのできる空間

新しい施設が伊予市の拠点として役立つイメージを考えよう

グループとともに、「まちなかに広がるイメージ」、「伊予市全体に役立つイメージ」を考えました。

まちなかに広がっていくイメージ

() はグループ番号

◆使いやすい、人が集まる施設

- ・JR、伊予鉄の通学、通勤者のためのサービスについて（連携、利便、開館時間、アクセスなど）(1)
- ・空調が効いた勉強部屋 (2)
- ・中高生の勉強できる場 (2)
- ・高齢者の健康寿命を確保するためのウォーキング、散歩の目的地として利用できるようになればいいのでは…。(2)
- ・高齢者大学、陶芸、俳句教室。手芸作品の発表の場 (2)
- ・俳句教室等、高齢者の学びの場 (2)
- ・親子連れの演劇発表等 (2)
- ・親子の時間を確保することができる場所 (5)
- ・親子連れの人々が時間的に長く過ごせるように、快適かつ安全であれば多くの人々が利用できる（ただ”みんなく”との違いは分かっている。お母さんたちはグループで行動、集まり、たくさんの人に集まってもらえる。(2)
- ・車イス利用者への配慮 (2)
- ・全ての世代の郡中地区住民と他の村との交流。まちなかの活動が来訪者に開放され、参加できる仕組みづくり (4)
- ・老若男女が理解の出来やすい、みてもわかりやすい表示、看板？英語などを使うのもいいが、誰にでもわかりやすい説明(日本語、英語など)にしてほしい。(5)
- ・休みの日には子どもと、仕事帰りには一人で行ける、それぞれが自分の時間も大切にできる場所。なんとなく知っている人がいる空間 (5)
- ・二つのステップに分けて考える。一つ目は自己実現の場。二つ目は他者とのつながりを作る場 (2)
- ・具体的な宣伝、啓発活動が大事。ホームページとか広報だけではほとんど効果なし。(2)

◆まちの資源の活用、整備

- ・旧街道沿いの商店、民間、空き店舗で「まちじゅう図書館^{*3}」を展開する。(1)
- ・まち探検など、歴史、文化をはじめ「宝探し」をするなど、まちじゅう博物館の活動を進める。歴史的建造物を活用した「たてもの体験」学校 (1)
- ・中心市街地の空き地、空き店舗を活用したアートプロジェクトの展開。出前(ダンス、パフォーマンス、音楽、演劇、デザインなど)(1)
- ・まちなか、芸術村構想。広銀跡、朝日生命跡利用、宮内邸の役割、既存の市民活動とセンターとのリンク (4)
- ・灘町、湊町には路地裏もたくさんあり、まちなか一体に例えばアートの拠点を置き、巡る楽しみのあるまちに。その案内所が今回のセンター (4)
- ・図書館に限らず、各地に子ども、学生の学習スペースをつくる。まちなかにも周辺各地にも。(5)
- ・大洲街道を弱者にとっても安心して歩ける道に。空き地の利用については協議会等、市民で来訪者を迎えるしつらえを考え、魅力ある通りに。(4)
- ・まちなかを歩行者優先の歩きやすい構造に変える。(5)
- ・「郡中景観計画」に基づいて、まちなみ整備、花づくり、緑や小公園、歩道整備、五色浜、港などのネットワークをつくる。(1)

◆商店街の活性化、道の整備

- ・灘町、駅前の商店街に後継者が出来、賑やかになることで人通りが多くなり、伊予市全体に活気が出る。図書館を利用する人も街に寄って欲しい。(1)
- ・商店街等での催事と協調した活動により、利用者を商店街や中心市街地へ導く。(1)
- ・商店街の通り周辺に人が歩きたいと思う施設を作る。中心地を盛り上げることが大切 (4)

※3 まちじゅう図書館（博物館）…お店や家など、まちじゅうを図書館（博物館）にしていき、本などのある場所を通して人と人がつながろうという取組。菟市や船橋市、恵庭市、小布施町など、各地で展開されている。

◆イベントの実施

- 中心市街地のイベントを新しい文化施設、市役所などの拠点施設で、足並みを揃えて実施していく（集客機能を高める。）。(1)
- 一箱古本市を栄養寺や上行寺などで開催する。(1)
- 図書館行事と連携したフリーマーケット、おいしい料理、カフェをまちなかで行い、元気にする（地元のものを利用する。かつお節や農林水産物を活用したレシピ、グルメ、文化の創造）。(1)

◆コミュニティバスの実現、駐車場の考え方

- コミュニティバスの停留所をできるだけ近く。(2)
- コミュニティバスの実現が最優先される。老人も中高生も誰もが利用でき、活動範囲が広がると思う。料金は路面電車並。150円がベター (3)
- 車で動くことが多いけれど、歩いて行く、バスなどを利用してもらう機会をつくる。(5)
- 駐車場が施設の横にあるという発想から自由になるべきだ。離れた駐車場から歩く。(5)

伊予市全体のネットワークの中心として役立つイメージ

() はグループ番号

◆他施設との連携

- 新図書館と上野、中村、中山、双海等の図書館(室)と連携、充実。移動図書館、配本(1)
- 双海、中山などの学校、公民館などとの図書館サービスの連携。ITの活用（どこでも借りて、どこでも返せる。）(1)
- 図書館は地域事務所や公民館と連携しながら、移動図書館を運営すべき。(1)
- 「ウェルピア」「花の森」の宿泊機能を利用して、レジデンス・アート・プロジェクト（滞在型の創作活動）をつくり、新しい文化施設、新庁舎、各学校、地域での公園、アウトリーチ^{※4}を行う。(1)
- アウトリーチ活動（出前音楽、演劇など）を積極的に展開する。学校、公民館、集落などの「場」の活用 (1)
- (景観地区) まちなかの魅力をこの機会に来訪者に回遊できる仕組みを。各所発掘、申し出。ex. 小布施の個人のお庭拝見のような。(4)
- 各地に半径300m（徒歩5～6分）のエリアにコミュニティ施設(空き家、集会所)をつくり、簡単な介護、子育て施設、学習活動の拠点とする。各拠点に物販サービスの機能を持たせ、住民が一定額の消費をして（各家庭、月何回）雇用を発生させて、常に営業できる体制にする。(5)
- 建物の素敵な空き家、古い家を活用する。(5)
- パーキングについても、まちなかの空き地を利用して人の流れをつくる。(4)

◆人が集まる場

- 魅力ある街づくりが一番だが、若い人がいなくてさびれているので、街に風穴をあけ人口を増やしたい。(1)
- 三世代の人々が集まれる（楽しく過ごせる）場所と施設でありたい。(2)
- 社会的マイノリティ^{※5}を包摂^{※6}していく場。ドロップアウト^{※7}した若者を迎え入れる、仲間として受け入れる施設とまち (4)
- 文化ホールで他地域の人と交流を図ることが出来る場所 (5)
- 各分野に強い人が能力を発揮できるようにする。(5)

◆情報発信

- 双海、中山をはじめ、伊予市全域の情報発信が複合施設でできるように(伊予市まちぐるみ博物館)。(1)
- イベントなどの情報が伝わりにくい。子どもやお年寄りインターネットを見る機会がすくないので、自然に耳に入ってくるようなものにしてもらいたいです。(5)
- インターネットだけではなくて、地域の情報を年配の方や子どもにも分かりやすくしてほしい。(5)
- 文化ホールに足を運ばば、インターネットで得られない情報が入る所にする。(5)

※4 アウトリーチ…公的機関、公共的文化施設などが行う地域への出張サービス

※5 マイノリティ…少数者、立場が小さい人々

※6 包摂…経済・社会が、その本来の所関係にとって外生的な存在を取り込む過程

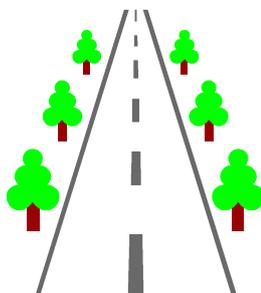
※7 ドロップアウト…ある社会組織から抜け出る事（抜け出た人）や、学校における中途退学など。

◆サービスの向上

- ・移動図書館(3)
- ・移動バスで図書館や出張イベントをして、本庁地区での文化ホールのことなどもアピールしては？地域コミュニティスペースになるといいなと思う。(5)
- ・巡回図書館の充実→民営化してカフェ付き、ミニスーパー併設移動図書館にする。移動図書館をコミュニティスペースにする。(5)
- ・定期的に各地域へ移動図書館を設けてほしい。専属の職員(パートの方)を雇用しては。(5)
- ・出前サービスの充実(2)
- ・本の予約がPCのインターネットで簡易に出来て、希望の図書が読めるようになりたい。(2)
- ・予約(リクエスト)(3)
- ・図書の宅急便。図書のインターネット開示(著作権の問題あり。)(2)
- ・返却ポスト(3)
- ・全市に「よみきかせ隊」をつくる。(1)
- ・バリアフリー(3)

◆道の整備

- ・海岸通り、大洲通り、市役所前通り、それぞれの役割、性格を整理する。(4)
- ・周辺道路の整備(3)



◆交通の利便性

- ・1日2回位、市バスを走らせる。伊予市に住みたいなと云われる様にしなくては発展はない。子どもを増やしたい。レトロバスなどがあれば、観光めぐりが出来る。(1)
- ・コミュニティバスなど、交通手段の利便を！移動、自動車との関係も考え直さないといけない。(1)
- ・コミュニティバスの利用で来所できるようになるだろう。但し、遠隔地への出前サービスは必要。遠方の人へのサービスは何とか考えられたらgood!(2)
- ・文化ホールの催しに際して、送迎サービスがあれば…。例えば昔の映画を上映するとか、入場料金を取っても送迎サービスがあれば利用しやすく、行ってみようという気になるかも?(2)
- ・現在、市側としてコミュニティバスの運営を考えていると聞く。これを実現すれば、1人でも遠隔地でも利用し易い。中山、双海はどうなっている？コミュニティバスは路面電車並とする。150円がベター(3)
- ・コミュニティバスを双海や中山などの遠いところまでしてほしい。(3)
- ・コミュニティバスを出してほしい。港の空き地にも駐車スペースを作って、自転車や馬車など(コストの面は…?) (5)
- ・巡回バスを考える。(4)
- ・行事があり、それに行こうと思っても、小・中学生は自転車ではあまりにも遠く、平日などでは午後からしか動けないので、小・中学生の時間帯に合ったバスなどを考えてほしい。(5)
- ・デマンドタクシー利用を考え直す。(4)

<1グループの発表から>

新しい施設が、まちの顔として元気づくりにつながるにはどうしたらいいかを考えた。まちじゅう図書館、一箱古本市、商店街を利用したフリーマーケット、地元の産業を活用したレシピやグルメの発信、アートプロジェクト、まち探検の宝さがし、歴史的な建物を活用した体験などを図書館事業と連携してやってみようか。また郡中の景観計画に基づいて町並み整備をする。市街地のイベントを、文化施設や図書館、市役所などの拠点で足並みを揃えて実施して、全体として集客機能を高めていこうという意見だった。

市全体では、新図書館と既存の図書室との連携、配本。ITの活用。全市によみきかせ隊を広げる。ここでやったものを、例えば双海や中山のプラットホームコンサートのように、プラットホームでやってみたり中山の音楽堂でやってみるなど、アウトリーチ活動を伊予市全体でやる。「伊予市に住みたいな」と思われるようにしなくては発展はない。レトロバスのようなものがあれば、観光巡りができるのではないかな。



<2グループの発表から>

2段階に分けて考えた。1段階目は、自分が使いたいことに利用する、自己実現の場。学生は勉強の場、高齢者は学び、発表する場。幼稚園だったら発表会で、うちの子がどれだけうまくやっているかをみんなに見てもらおう。そんなことにこの場所が使えることを大事にしたい。そのためには宣伝や啓発活動が大事である。

自己実現ができれば、「この施設を造ってくれた伊予市に何か貢献したい」、「この場所を使ってみんなと仲間になって伊予市を盛り立てていきたい」という第2段階。おばあちゃんの作品展に三世代の人が集まって楽しむようなこともできれば良い。遠くから来られない人のためにどうするかは課題である。

まずは何のためにでも利用して、自分の自己実現を図ってもらおう。そうすると伊予市を愛し、伊予市を盛り立てたいと思う。そして図書館も公民館もみんな道具として使われて、それが主役になることはないけれど、実はすごく裏の力になってくれる、そういうものを目指していったらいいのではないかと思う。



<3グループ発表から>

高齢者になって交通の足がなくなり、買い物難民という問題が出てきている。また自転車保険が適応される方向で世の中が動いているので、自転車の利用も難しくなる。コミュニティバスが実現すれば、子どもでも老人でも若年層、働き盛りの人でも自由に使える。買い物難民問題も解消され、複合施設に寄る人も増えてくるのではないかと。中高生でも長距離になると交通障害の問題が出てくるので、コミュニティバスがあれば安心できる。コミュニティバスは一人200円と聞いているが、伊予鉄の路面バスの150円程度の運賃が適当ではないかと思うので、行政側はそれを考えていただきたい。そういうことをやれば市内の人、市外の人、郊外の人が中心に寄ってくるチャンスは増えてくると思う。

また、周辺道路のバリアフリー化の整備が遅れているので、その必要がある。

昔、移動スーパーという、買い物難民のために出かけていた成功例があるので、移動図書館をやればもっと幅広く、図書になじむ人が増えてくるのではないかと。



<4グループの発表から>

それぞれの地区や通りには、それぞれの役割がある。行政や文化施設ができる郡中地区の役割は何か。また海岸通り、大洲通り、市役所前通りの役割をもう一度整理する必要があるのではないかと。

去年、新川で不幸な事件があったが、そういう若者や社会的なマイノリティの方を受け入れる施設が田舎ほどない。そういう意味では、この施設と周辺のまち、それに関わる人や訪れてくる人たちが共に、彼らを仲間として受け入れることが必要である。

4年ほど前から、まちなかの芸術村構想を考えている。今は歩いてもあまり楽しくない道路だが、裏路地も含めてアートの拠点を作れば人の流れができるし、まちなかの空き地をあえて駐車場として利用してもらおうことによって人の流れを作れるのではないかと。また、まちなかの魅力を、この機会に来訪者に対してアピールする、回遊できる仕組みをつくってはどうか。小布施では個人の家を巡るような仕組みがある。

施設のことだけを考えるのではなく、まちなかにある施設のありようを総合的に考えていく必要があるのではないかと。

<5グループの発表から>

今後、人口減少が本格化し市の税収も減る。市民にできることは市民でやるという考え方でないと、この小さな自治体はやっていけないと思う。

巡回図書館を民営化してカフェ付き、ミニスーパー併用型、コミュニティスペースにして、地域の方が来る日を楽しみにするようなものにしたら良いのではないかと。ここ20~30年で各集落の小さな店が次々と廃業した。これを復活させて、例えば1世帯10,000円分の商品を購入する。100世帯×100万の売り上げがあれば、そこにパートさんを2~3人、雇用できるかもしれない。そうすれば簡単な介護や子どもの見守り、学習のスペースが各地にできる。そこへ巡回図書館やサービス、医者が来るようにするなど、行政コストをかけずにやる方法を考えるべきではないかと。

車を港の空き地に停めて5分歩いたり、貸し自転車を設置しても良い。そこに雇用の場が生まれたら儲けものである。

学習スペースは、町のいろんなところに造ってはどうか。また、まちじゅう図書館という構想も打ち出していきたい。知恵を使って金を使わないまちづくりをやっていければいいと思う。

まとめ

最後に、今日参加しての感想やご意見などを感想カードに書いていただきました。



今日の感想

- 文化ホールが有るべき姿が見える回でした。普段から住んでいるので、伊予市という町が他地域から見てどのように映るか分かりにくい部分があります。しかし、今日は客観的な視点で見ることができた。文化ホールがどうなっていくか楽しみです。
- 少しずつ、よりよいものになってきている気がします。2018年にはぼくは中学三年生です。一番使う年れいなので、完成が楽しみです。最初と比べて少し小学生の人数が減ってきているので、自分がしっかり意見を出してがんばりたいと思います。
- 毎回、何度でも理念を語り、考え直すことが許されていることに感謝している。理念こそがこの施設を生かしても殺しても思っている。
- 発表の方法を考えて欲しい。発表者はグループで話し合った事を述べるのであって、自分の考えを延々と発表する人が居る。時間がかかるのみ！自分の意見、考えは別の場でやって欲しいヨ！1組当たりの発表時間を決めて発表しては？



運営について

- イスの大きさは52cmでもいいのではないかと(54cmとあまり差はない)。伊予市全体(伊予、双海、中山)で「まちを元気にする」「まちを再発見する」「まち全体で学べる」「まちの宝、資源をつなげる」「新しい創造の拠点づくり」など、伊予市らしいソフト(知的財産、人材)をフル活用する運営方式を、市民の参画、協働でつくりあげたいですね。
- 「役立つまちなかのあり方」はいろいろなアイデアを聞かせて頂き、役に立った。交流広場の文化ホールのステージ上部は、外観的に違和感を感じるが、他の施設のように屋根等にマッチングすることが無理でしょうか。運営法として、センター長は応募で決定してはいかがでしょうか。
- 「郡中公民館」のこだわりを捨て、本庁舎と文化ホール、図書館の公民館的活用をすべきだと思う。文化ホール、図書館を活用して、市民が何を産み出していくのがこれからの課題だ。
- 早く館長さん募集して、今まで出た意見や方針についていっしょに議論しましょう。



いろんなアイデアが聞けて良かった

- 椅子の座り心地がとても良かったと思います。椅子は大事ですね。久しぶりのワークショップでした。やはりいろいろな世代のいろいろな立場の人の意見を聞く機会は本当に貴重だと思います。アイデアが参考になりました。
- 皆が熱心に考えられていて、自分は参加しただけで恥ずかしかったです。素晴らしい発想があり、実現出来れば楽しく、嬉しく思います。
- 今回はたまたま今日出席者の2名の小学生のうち、1名が私たちのグループに入り、一緒に色々話すことが出来、小学生がとてもしっかりした意見を持っていて感心しました。小学生が参加している事で、アットホーム的な温かい感じを受けました。ワークショップもいよいよ終了間近になりました。とても色々勉強になりました。主催者側の職員の方々、毎回の資料作りなど、本当にご苦労様でした。
- イスは52cmでOK。十分だと思います。座席通路としてもかなり楽でした。「公民館」の呼称問題、気持ちの上で目鼻が見えた。回を追う毎に充実してきたことを実感。最後の各班のアイデアは面白かった。多くのヒントがあった。
- まちなかがどんどん活気がなくなり寂しく思っていました。伊予市に対する熱い気持ちを持っている人が多く、深く考えさせられました。まず人を増やす努力が先決問題だと思います。伊予市の自然を生かしたアートプロジェクトを考えたり、合宿などを行えるようなプロジェクトを考えてみればよいと思います。今後、伊予市が輝いていけることを期待しています。



椅子について

- 椅子のことについて、大人にはちょうどいいと思うけど、子どもには広すぎる感じがした。
- イスの体験。ゆったりしていると思う。
- 椅子の幅は2種類設置するのは無理でしょうか？(体格の大きい方、車いすの方、酸素などの機具を持っている方)管理運営は話し合いが十分行われる事を臨みます。今あるものを使って工夫する、その中心になる場所になるよう、一人一人の意識を高めることが市民の第一歩でできること。